

# 両親が建てた家を、思いを受け継ぎながら一新

北海道 N邸

## ■30年前に建築した会社にリフォームを依頼

Nさん夫妻はご両親が30年前に帯広に建築した平屋の家をリフォームして住み継いでいくことを決めました。お父様が性能・間取りにこだわりツーバイフォー工法で建てたN邸は診断の結果、十分な性能を維持していることが判明。30年経っても構造が衰えていないことを知り、夫妻はリフォームも同じ建設会社に依頼。性能面では屋根に断熱材を少し加え、外壁にラスと軽量モルタルを施し、窓ガラスを断熱仕様に変えた程度でしたが、新たな暮らしを始められたお二人は、「夏も冬も想像以上の快適さです」と満足しています。

## ■元の家を活かしながらラッシュアップ

N邸では、機能的な間取りを大きく変更せずにリフォームしました。夫妻のライフスタイルに合わせ、2つあった和室の1つは洋室にしてLDKと連続するセカンドリビングに、玄関脇のもう1つはシューズクローク兼ファミリークロゼットに変えました。

内装は、建築に関心のあるお二人が長年温めてきたイメージでコーディネート。ご主人が「多くのモデルハウスを見学し、最高の配色だと思った」という若草色と茶系でシック

にまとめられています。奥様のこだわりは造作のオリジナルキッチンや職人の手仕事による無垢床としてかたちに。お父様が作りあげた住み心地をベースに、夫妻のこだわりが生かされた住まいに生まれ変わりました。



開放的に生まれ変わったLDK。カウンタースタイルのダイニングキッチンに変更し、和室からリニューアルした洋室と一体化した。職人により立体的に仕上げられたハンドスクレイプ加工の無垢床は「素足に感じるやわらかさ・しっとり感が素晴らしいです」と奥様。

板金屋根からアスファルトシングルに葺き替えられ、雨音の防音対策とともに意匠性が改善された。外壁は左官職人による塗壁仕上げとした。



築30年のN邸。北海道の道東でツーバイフォー住宅第1号を手掛けた建設会社(創業1912年)により建てられ、30年を経ても十分な性能が維持されていた。



クロゼットの位置を変え、テレビ台や飾り棚がついた木製の壁面収納を設置した主寝室。カーベットのブルー系の反対色だが彩度が低いので落ち着いた雰囲気がある。



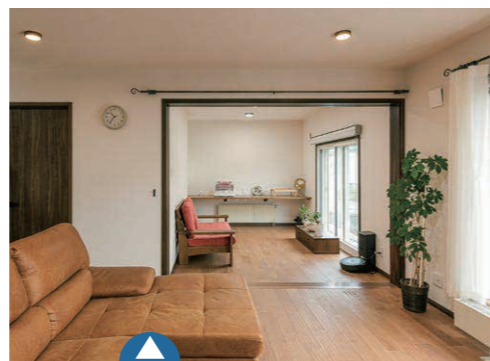
洗面・脱衣室のクロスをキッチンと揃えて一体感を演出。限られた空間に広がり生まれた。



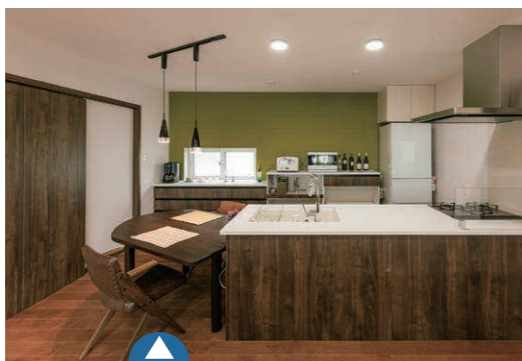
玄関の隣にあった和室をシューズクローク兼ファミリークロゼットに変え、土間から直接出入りできるようにした。



土間とホールの間の引違い戸が外され広々とした玄関。式台によりクロゼットへの出入りがスムーズになっている。



居間の奥にあった6畳の和室。



以前は袖壁があった対面式キッチン。

ダイニングテーブルを斜めに配置し、空間に動きを加えた。テーブルは夫妻のイラストから型を起こしたオリジナル。

リビングとつながれた洋室は、LDKとの一体感とおこもり感、両方の心地よさがある。壁際の暖房器具は以前のものを活用。



災害に強い「在宅避難ができる家」を掲げる建設会社の提案により、停電等への備えとして、発電機をつなぐと電源が自家発電に切り替わるシステムを導入。

写真提供：住宅会社選びWebサイト「iezoom(北海道住宅新聞社)」

## リフォームのプロが語る

### 30年超の壁の中も、ツーバイフォーの構造特性は新築時のまま

十勝の冬の厳しい寒さ(-20℃)と夏の暑さ(30℃)との寒暖差は実に50℃。吹雪に台風、震度3以上の地震も頻繁に発生する、厳しい自然環境の中でもツーバイフォー住宅は構造躯体の経年劣化が少なく、基本性能を永く維持できる工法であることを、今回の築30年のリフォーム工事でも実感することができました。

断熱材のグラスウールは交換することなく再使用し、外壁材も剥がさずラスを張って軽量モルタルを施すことで熱容量は増え、冷暖房効率が上がったことをオーナー様自身が感じておられました。産業廃棄物の処分も極力抑えられ、まさにツーバイフォー住宅はエコリフォームにも適した工法であるといえます。

(㈱赤坂建設 赤坂 正氏)

N邸設計・施工/㈱赤坂建設

## DATA

リフォーム年/2022年8月  
築年数/30年 規模/平屋  
既存建物面積/94.40㎡(28.56坪)  
リフォーム面積/96.06㎡(29.06坪)

After  
Before